

2016年(平成28年)5月18日(水)



22日にオープンする「三島・緑と水の杜・三島梅花藻の里」のひょうたん池＝グラウンドワーク三島提供

回遊性高める新名所に

三島・緑と水の杜

22日にオープン

三島市のNPO法人グラウンドワーク三島(GW三島)が整備を進めていた同市南本町の「三島・緑と水の杜・三島梅花藻の里」が22日オープンする。宅地開発から湧水地を守ろうと、GW三島が募金約280万円と署名約1万人分を集め、三島市が土地を買収して整備された。GW三島は「源兵衛川や隆泉苑など緑地や水辺をつなぎ三島市の回遊性を高める新名所にしていきたい」としている。

既存の「三島梅花藻の

ミシマザクラなど植樹 子供らの環境教育の場にも

里(377平方メートル)と、宅地開発が進められていた西隣の湧水地(313平方メートル)を一体整備した。湧水地周囲には、ミシマザクラやシラカシ、ムクノキなど約20本を植樹し、三島の溶岩で縁取ったひょうたん池(幅約9メートル、奥行き約6メートル)を造った。池の周りには溶岩や木製ベンチも配置した。「三島梅花藻の里」はミシマバイカモの繁殖地として1995年に整備された。一体として、子供たちの環境教育の場として役立てるといふ。

緑と水の杜の緑化プランで、GW三島は都市緑化機構など主催の「緑の環境デザイン賞」で最優秀賞「国土交通大臣賞」を受賞。この助成金約800万円と、市民らの募金約280万円を元にGW三島が1月から工事していた。

22日の完工式には、豊岡武士市長やGW三島の小松幸子理事長、梅花藻の里の所有者である佐野美術館の峰田武理事長ら約30人が参加する。

【垂水友里香】